# 認知症ケアチーム活動開始
# 「住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けたい」

老人看護専門看護師　田　本　奈津恵

平成28年11月、当院の「認知症ケアチーム」が発足し、認知症を有する方へのチーム介入を開始しました。当院は神経筋難病患者さんが多く、パーキンソン病では、約40%の患者さんに認知症が伴うとの報告があります。また65歳以上の高齢者では、4人に1人が認知症またはその予備軍です。このようなことから、当院においても「認知症ケアチーム」の必要性は高くなりました。チームの主な活動は、週1回の各病棟の巡回と症例検討会、その後の看護計画を修正していくことです。また「認知症ケア部会」を開催し、対象者数の把握や運用、研修会を企画し、認知症に関する知識や看護方法を学ぶ機会の提供をしています。当チームの構成員は、医師（認知症専門医）、看護師、医療ソーシャルワーカー、必要に応じて理学・作業療法士、薬剤師、事務です。看護師は日本全国（東京・京都・名古屋・長野・県内）で開催された研修会に参加し、認知症ケアに関する知識と実践力を高めました。「認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域の良い環境で自分らしく暮らし続けることができる社会を実現する」を大きな目的として、当院に入院している患者さんも、環境変化に伴う苦痛を最小限に止めること、また身体・認知機能の低下を予防し、今ある力を維持していくこと、早い段階からの退院支援、レスパイト入院等を活用しながら在宅生活を維持していくことが大切です。

症例検討会では、離床や生活リズムを整えること、適切なタイミングでの排泄誘導、ベッド周囲の環境調整、コミュニケーション方法（思いを伝える）などが話し合われました。毎回白熱し、時間がかかってしまうことが多くあります。それぞれの職種が患者さんを中心に考えた結果であり、多くの気づきをもらえる会となっています。

患者さんがより自分らしくあるために、見守りと観察、関わる時間を持つこと、興味・関心を探ること、尊厳を守ること、家族へのケアを大切にしたチーム活動を目指していきたいです。

どうぞよろしくお願い致します。